

星野富弘の詩による歌曲の世界

—なかにしあかね「二番目に言いたいこと」を中心にその魅力を探る—

西 由起子

Yukiko Nishi

序章

JASRAC ((社)日本音楽著作権協会)の資料によると星野富弘の詩に作曲している作曲家は65人^(*)に上る。その中には「夏の思い出」の中田喜直や「サッチャン」の大中恩、合唱界で人気の高い新実徳英、信長貴富などの作曲家も含まれている。2010年までに出版された詩画集は6冊、そのほか自伝やエッセイ、更には対談^(**)なども出版されており、その詩やエッセイは教科書や新聞のコラム欄等々に引用されることもしばしばである。1992年に星野氏の生まれ故郷である群馬県勢多郡東村(現在のみどり市)に開館した「富弘美術館」の入館者は間もなく600万人^(***)に達する勢いであり、「ふるさと創生(一億円)事業」として最も成功した事例の一つと言われている。

星野作品の一ファンであった私が、親友であり新進気鋭の作曲家・なかにしあかねさんに「星野富弘さんの詩による歌曲集を書いて欲しい」と委嘱したのは1991年のことだった。それから既に19年が経つ。最初の委嘱作品「二番目に言いたいことしか」(後に「二番目に言いたいこと」と改題)、後に生まれた「星野富弘の詩、なかにしあかねの曲」による作品群の演奏は私のライフワークとなり、詩人との出会いを始めとして私の人生に多くの貴重な出会いと経験をもたらしてくれた。

現在では2枚のCD^(***)と5冊の楽譜を通して多くの演奏家や合唱団が両氏のコンビによる独唱曲・合唱曲集を演奏しており、「富弘さんの詩を歌いたい」「この詩を歌で伝えたい」という20年前の小さな願いが想像以上の広がりを持って花開いているこ

と、特に若い世代に歌われ始めていることを幸せに感じている。

第1章でこれらの委嘱作品がどのように生まれ育って行ったのかを記録するとともに、第2章では私が委嘱した2つの歌曲集の解説を試みたい。

第1章 委嘱作品の誕生とあゆみ

第1節 星野作品との出会いとその魅力

星野富弘さんの詩に初めて出会ったのは、処女詩画集「風の旅」（1986年／立風書房）が世に出て間もなくの頃だった。多くの詩に感銘を受けたが、中でも最も鮮烈な感動を受けた作品が「なずな」だった。

「なずな」

神様が たった一度だけ
この腕を 動かして下さるとしたら
母の肩を たたかせてもらおう
風に揺れる
ぺんぺん草の実を見ていたら
そんな日が
本当に来るような気がした。

脊髄損傷により首から下の運動神経に回復の見込みがないと宣告された著者が、絶望の淵から如何にしてこのような詩を心から書く思いに至ったのか？それは“ぺんぺん草が風に揺れる”のどかな風景と相反するかのような想像を絶する旅路ではなかつ

たのだろうか。これを書いた星野富弘という人はどんな人なのだろうか？

【星野富弘 略歴】

第二次大戦終後間もない1946年に群馬県勢多郡東村に生まれる。豊かな自然の中で野山を駆け回る活発な少年だった。地元の群馬大学では体操選手として活躍、卒業と同時に中学校教諭となる。その僅か3か月後、放課後のクラブ活動においてマット運動の模範演技中に頸椎を損傷、首から下の運動機能を失う。群馬大学病院に搬送され生命の危険を脱するも絶望の淵をさまよう。2年後の1972年、口に筆をくわえて字や絵を描き始める。1974年、キリスト教の信仰に導かれ受洗。その後、病室で書きためた詩画が認められ個展を開くと全国から大きな反響が寄せられる。これに後押しされるように9年間の入院生活を終え退院。1981年に結婚。詩画制作のサポートは母から妻である昌子さんにバトンタッチされ、現在も自宅にて創作活動を続けている。

自伝「愛・深き淵より」にはその絶望と、その後見出した希望の光が描かれている。動かない体を横たえて病院の天井を眺めながら「体が動かないままなら生き続けたくない」と思う反面、「死にそうになると生きたいと思った」日々。

入院のお見舞いに大学の先輩が持って来てくれた聖書を「体が弱っている時に神に頼るなんてプライドが許さない」と、病室のベッドの下にしまいこんでいた長い時間の後、開いた聖書の中に見出した聖句。それは子供の頃、家の裏山に建っていた十字架の墓に刻まれていた言葉と同じだった。

『すべて労する者 重荷を負う者 我に來たれ (マタイによる福音書 11章 28節)』

星野さんはある時の講演でこう話されている。「私がこうしてケガをして、苦しんで道に迷ってどうしていいか分からなくなったその時に、神様はそれより何年も前に、教会も何もない山の畑の土手にこの言葉を…私に用意しておいてくれたんじゃないか、

そう思いました。」「“こんな体になってしまった自分が生きていていいのだろうか…”との問いに答えを与えてくれたのも聖書でした。神様って障害を持っていようが持っていないが、大きな仕事をしようがしまいが、平等に人を愛していて下さる。自分のようなこういう人間でも、卑屈にならずに胸張って生きていていいんだ。神様はそれを見て、認めて下さっているんだ、と前向きな心に変えられて行ったのです。」

星野さんの詩と画はお互いの存在を必要とするようにキャンバスの場所を譲り合いながら描かれている。柔らかい色合いの画に寄り添うように、詩を書く独特の丸い字すら画の一部となっている。そこに描かれるのは私たちの回りで見かける、飾らない花々が殆どである。“雑草”と呼ばれる草や枯れた葉や花も慈しむように描かれている。

人々が星野さんの詩に心を動かされるのは、その優しさ・温かい視点はもちろん、誰もが持っている弱さや不完全さ、自分では言葉に出来ない思いを見出し、共感するからではないだろうか。その言葉は人々に生きる力を与え、勇気づけ、励ます力を持っている。それは星野さんの内側に、辛い日々を通ってもなお「苦しみにあったことは私にとって幸せでした」と断言する強さが内包されているからであり、その根底には家族・友人・周りの人々との温かい関係に加えて、信仰による神との関係による支えがあるからだということを強く思わされる。

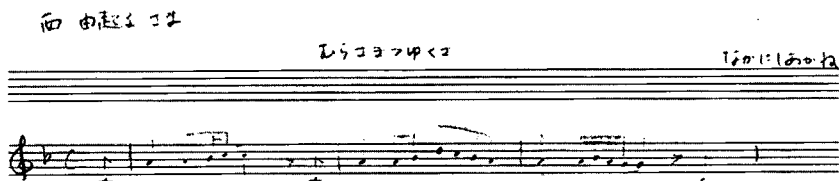
第2節 委嘱作品の誕生

「風の旅」の好評により第2詩画集「鈴の鳴る道」が刊行された。多くの星野作品に触れ「富弘さんの詩を歌いたい」という思いに迫られるようになったものの、自らは作曲という手法を持たない。ちょうどその頃、なかにしあかね氏による「星野富弘の詩による混声合唱曲集～風の旅」（楽譜出版の際「思い出の向う側」と改名）を演奏する機会に恵まれた。^(*) 星野さんの優しい詩の世界がそのまま音になったような、

詩のメッセージが素直に心に届く、涙の出るような美しい音楽に触れ、これが自分にとっての星野歌曲の理想であると確信し、早速作曲を委嘱した。

1991年の夏、2人で部屋いっぱい候補の詩画を並べ、当時出版されていた「風の旅」「鈴の鳴る道」から7編の詩を選んだ。委嘱のきっかけとなった「二番目に言いたいことしか」は最初から候補に入れていた。全く違う旋律で依頼することも出来たのだが、出来るだけ合唱曲の旋律のまま歌いたかったので、基になった合唱曲を私の声域で歌える範囲で独唱用にマイナーアレンジして貰うことになった。他に「喜びが集ったよりも」もこの合唱曲からモチーフが採られている。「なずな」は好きな詩ではあったが最終的に候補から外れた。なかにしさんは、作曲家の視点から見ると詩としては好ましくても音になりにくい詩があるという話をされていた。この詩もその一つであったと記憶している。

1991年の暮れに近づく頃から、出来立ての楽譜が次々とFax.で送られて来るようになった。ちょうどこの年、クリスマス・コンサートを予定していた栃木県の今市市及び足尾町（現在はどちらも日光市に合併）の教会と日光市内のペンション^{(*)6}にて、その折に完成していた曲を部分演奏した。それから2か月後の1992年2月29日、故郷・神奈川県小田原市で開催した「西由起子リサイタル」にて全曲初演^{(*)7}をした。



【最初に送られて来た「二番目に言いたいこと」モチーフ】

第3節 CD化の軌跡

「二番目に言いたいことしか」が完成した時、私は大学院の最終学年を迎えようとしていた。ちょうどこの頃から外部で歌う機会も少しずつ増え始め、私自身、機会あるごとに好んでこの歌曲集を歌った。それはこの作品を愛したからだけではなく、「聴衆の人生に触れるような演奏がしたい」という自らが進もうとする道にぴったり合った作品だったからだ。

この歌曲集を演奏すると必ずと言って良いほど、何人ものお客様が涙を流しておられる様子がステージから見えた。こういった経験は初めてのことだった。コンサートが終わると「テープ（録音したもの）は無いのですか？」と訊かれることもしばしばだった。詩の力・曲の力・詩と音楽が一体になった時の力を肌で感じた。その中で徐々にCD化への夢が大きくなっていった。

2003年春。星野さんから届いたメールには、CD化を許可する旨の内容と共に、作品へのお褒めの言葉が添えられていた。（この言葉をCDの帯に引用させて頂いた。）全身が熱くなったような高揚感と、現実として信じられないような浮遊感が縋り交ぜになり、星野さんがなぜこの歌曲集の“音”を御存じなのか思いつかなかった。前年の夏休みに なかにしさんと2人でデモテープを作り群馬の星野家にお送りしていたことを思い出したのはしばらく経ってからだった。

ちょうど1年後の2004年3月、ライフミュージック（いのちのことば社）からCDが発売された。軽井沢での発売記念演奏会^(*)で星野さんが「今日は詩と音楽の結婚式です。」とお話しして下さったことは忘れられない。

第4節 楽譜出版

この作品は、「聴きたい」に加えて「演奏したい」という声が増え、それに押されるように私家版の楽譜が売れ、楽譜の出版に繋がっていった。カワイ出版から出版され

たこの曲集の巻頭には、なかにしさんが「富弘さんが築き上げた世界を壊さず、汚さず…今思えば二十代半ばの若さゆえの無謀としか思えないが、このことばをこう歌いたい、という思いがまっすぐに飛んでくるこの曲は、確かにその時の私にしか書けなかったものだ。」と書いている。この歌曲集が多くの人に愛される大きな理由の1つであると思う。

なかにしさんが星野さんの詩に作曲した3つの歌曲集「二番目に言いたいこと」「木のように^(*)」「ひとつの花が咲くように」に加えて、作曲家自身がこれらの歌曲集から抜粋して女声合唱組曲に編曲した2つの女声合唱組曲「今日もひとつ」「悲しみの意味」、更には私がなかにしさんに作曲を依頼するきっかけとなった無伴奏混声合唱組曲「思い出の向う側」は現在すべてカワイ出版より出版されている。また、「今日もひとつ」(ピース)は同社の「ウェディング・セレクション」に女声版・男声版・混声版が収録されている。

なかにしさんがピースとして作曲し、2010年現在出版されていない曲は3曲。

「ツルウメモドキ」と「青梅」は“東村の子供たちのために”という副題がついている。この2曲は2005年の新富弘美術館開館オープニング式典の際に美術館からの委嘱で作曲された。(「青梅」は歌曲集『木のように』の第3曲「木の実がまるい」と同じ詩だが別の曲である。)

「木の葉^き」は2010年1月、CD「今日もひとつ」発売記念コンサートのアンコール・ピースとしてなかにしさんに委嘱、初演した。

“神様にゆだねた人生なら 木の葉のように 美しくなって 散れるだろう”

この美しい言葉に、なかにしさんがライフワークとする英国歌曲の薫りがするサウンドが重ねられた。いつかこの曲を中心にした歌曲集を委嘱出来たらと願っている。

第2章 委嘱歌曲集の解説

第1節 歌曲集「二番目に言いたいこと」概説

当初の手書き楽譜タイトルには「ソプラノとピアノのための歌曲集」と冠されていたが、他の声種や男性の歌手により歌われる機会が増えたこともありCDリリースの際に「星野富弘の詩による歌曲集」と変更した。また「～しか」は否定形を導く言葉であるため、星野さんよりご助言頂き「しか」をカット。「二番目に言いたいこと」とした。楽譜出版の際には各曲のタイトルから花の名前がカットになった。

当初は「一日は白い紙」と「山に行こう」の演奏順を逆にするなど違う曲順も試していたが、結局今の曲順に落ち着いた。歌曲集なので曲順は演奏者の判断で変えたり抜粋で演奏することも可能である。

7曲どれもが星野さんの詩のように美しく優しく温かい。そのため平易に聞こえるが、音域も意外に広く演奏が必ずしも易しいとは言えない。前述のように当初は「ピアノのための」と入っていた通り、ピアノパートにも大きな役割が与えられている。歌もピアノもクラシック音楽以外のリズム感やハーモニー感覚が要求されるため、クラシックのみを勉強して来たピアニストの方に「難しい」と言われた経験が度々ある。確かにクラシックの手法に固執すると重たい印象になりやすい。歌い手にとっては文章としての日本語が自然で且つ聴き手に意味を持って伝わるような歌唱が求められる。

自分では初演の時とそれほど変わらない歌い方をしているつもりだったが、改めて初演の録音やCDを聴いてみると今とは随分違っている。声自体も年齢と共に変わっているのは勿論、当初は日本語を響きに乗せるコツも今一つ分かっていなかったので7曲を歌い通すと喉が疲れてしまうこともあった。近年はこの作品を他の演奏家の演奏で聴くチャンスもあり、詩に対する感性の違いや音楽解釈の違いがこんなに出るも

のかと驚いたし、昨年、女声合唱組曲「今日もひとつ」のCD録音にアンサンブルの一員として参加した際には、独唱と合唱の違いだけではなく指揮者により異なった流れになってゆくのが新鮮だった。

この歌曲集は演奏者によりまったく違った音楽になる可能性を持っている。星野さんの詩がその時その時の人生の場面によって新しい意味合いを持って心に響くのと同様に、なかにしさんの音楽が人生における心や音楽解釈の変化を受け入れる柔軟性を内包していることも、この作品を長年歌い続けても尚、常に新鮮な思いで歌うことが出来る一因でもあるのだろう。

第2節 歌曲集「二番目に言いたいこと」各曲解説と演奏のポイント

※タイトル後の《 》 = 《出典詩画集及び詩画／調性／拍子》 ※小節数はカワイ出版による。

第1曲「いつだったか」《「風の旅」たんぽぽ A-dur 4/4 拍子》

前述のように曲順は自由であるが、春風が爽やかに吹いているようなピアノ独奏で始まるこの曲は、歌曲集の第1曲にふさわしい。曲全体を通して春風がたんぽぽの綿毛を軽やかに飛ばしてゆくような爽やかさで彩られている。「ただひとつ」という言葉が繰り返して出てくる。「ただひとつのもの」が何を意味するのかを自分なりに捉えて歌いたい。

冒頭、8小節のピアノ独奏部分は、たんぽぽに春の風が優しく吹く情景が見えるようにイメージして弾いて欲しい。これは後奏も同じだが、アルペッジョを軽やかさを失わず且つ速すぎずに弾く工夫が必要。9小節目のテンポが上がる部分でたんぽぽの綿毛が一斉に飛ぶ様子を想像し、その軽やかさが出るように。

31小節「風に吹かれて」の「れ」は楽譜ではfisとなっているが、関東育ちの私にはイントネーションに違和感があったため、関西出身である作曲者の許可を得、初演

から現在に至るまで、CD「二番目に言いたいこと」の録音も含め cis で歌っている。
 CD「今日もひとつ」収録の女声合唱版では楽譜通り fis で歌われている。《譜例①》

譜例①

31 *mp*
 かぜに吹かれて ただひとつのものを

「人間だってどうしても必要なものはただひとつ」の部分は短調の和音を生かし、
 思いを込めて歌いたい。53～55 小節、Hum. が指示されている部分は「ただひとつ」の
 モチーフであるが、私は作曲者の承諾を得て「ただひとつ」と歌詞で歌っている。

《譜例②》

譜例②

51
 のはー ただひとつ ただひとつー Hum. Hum.

第2曲「一日は白い紙」（「鈴の鳴る道」秋のあじさい G-dur 2/4 拍子）

美しい旋律を優しい和声進行が彩っており、短いながらキラッと輝く小品。初演以
 来、主に前後の曲との兼ね合いで様々なテンポで演奏してきた。休符が多いのでフレ
 ーズを長く取り、文章がバラバラにならないように心掛けて歌っている。「太く細く」

「震えながら」を歌う時には常に、富弘さんが口に絵筆をくわえて詩画を描かれてい
 る姿とその文字に、人生のカレンダーを重ね合わせる映像を想像して歌っている。それ

ぞれ強弱だけではない表現が必要になる。それが「神様がめくる白い紙に今日という日をつづる」に繋がっていく。《譜例③》

譜例③

24 *mf* ふ と く - は そ く *p*

28 *mp* - と き に は あ る え な が -

第3曲「山に行こう」（「鈴の鳴る道」ふしぐろせんとう F-dur 3/4 拍子→6/8 拍子）
7曲の中では最もクラシックらしい手法で書かれている。

冒頭10小節のピアノ独奏は雄大な山の景色を表し、私たちが実際に山に身を置いたような気持ちへと誘う。「あなたのつくられた風景」＝「創造主なる神が創造された自然」と対比して「小さな心に更に囲いを作っている私」。神である“あなた”との個人的な対話が自然な会話の祈りとして聞こえるように歌いたい。特に3小節余りの沈黙（ピアノ間奏）の中でどのように思いを溜め、どのように最後の「私」を表現するかが重要。私自身は“神の存在の大きさや、人間の不完全さを包み込む神の愛のまなざしを感じるとより一層自分の不完全さ小ささを思わされる”そんな気持ちでこの間奏を聞き、「わたし」を歌っている。

ピアノは42小節の入りを前の勢いで突っ込まないように。《譜例④》

譜例④

Senza misura の部分は語りになっている。自由に歌って良いが、「あなたの／造られた／風景を／見て来よう」の4つのパーツのうち1度は強拍に合わせて出ると意思が伝わって良い。《譜例⑤》

譜例⑤

最後の Vocalise を私は “Ah-” で歌っている。またこの部分はピアノパートに f が指示されているが、私は cresc. のあとブレスをし subito P で入りノンビブラートで歌っている。しかしこの部分の歌い方は幾つもの選択肢・可能性があるなので、ここまで歌って来た気持ちを最も表す手法をそれぞれが考えて頂きたい。(Vocalise に関して作曲者は「dim. の効果を出しやすい母音で」と書いている。) 《譜例⑥》

譜例⑥

* dim. の効果を出しやすい母音で

第4曲「喜びが集ったよりも」（「風の旅」きく（小菊） As-dur 12/8 拍子）

星野さんやご家族は、外出の際に車椅子姿を見かけた人から「お気の毒ですね」などと声をかけられ面食らってしまう経験を何度かしたそうである。自分も家族も毎日を結構幸せに暮らしているつもりなのに、多くの人には車椅子＝可哀想、という公式が出来ている。星野さん自身、ケガをする前は車椅子の人を見れば気の毒に思っていたという。しかし今、「幸せや喜びはどんな境遇の中にもどんな悲惨な状態の中にもあるし、病気やけがは本来、幸、不幸の性格はもっていないのではないだろうか。病気やけがに不幸という性格をもたせてしまうのは、人の先入観や生きる姿勢のあり方ではないだろうか」と思うようになったと語っておられる。この「逆転の発想」とも言うべき星野さんの考え方・姿勢が明確に表れているこの詩に、クリスタルガラスが陽光を受けて輝くような美しい音楽が付けられている。

最初のアカペラ部分を私は自分自身に語りかけるように歌っている。「喜びが集ったよりも／悲しみが集ったほうが／幸せに近いような／気がする」それぞれの行間に少し時間がかかっても良い。《譜例⑦》

譜例⑦

♪ ca. 63
mp
よろこびがあつまったよ - りも - かなしみがあつまった
ほ - うが - しあわせに - ちか - い - ような -

この曲にはこの後も「喜び、悲しみ」「強い、弱い」「幸せ、不幸せ」と逆の意味を持つ言葉が対比されて頻繁に出てくるので、その裏表を違った表現で丁寧に歌いたい。ピアノが旋律をとるところは音量的にも音楽的にもしっかりと表に出て来て欲しい。ただし音質が太くなったり固くなったりしないように留意が必要である。《譜例⑧》

譜例⑧

34 *mp*
ような - 笑 が する - - -
dim.

第5曲「いちじくの木の下」(「鈴の鳴る道」いちじくの木の下 d-moll 3/4&2/4)

この歌曲集で唯一の短調の曲。思えばイエスやザアカイの母国であるユダヤ(イスラエル)の民謡には短調が多い。心の波紋のような冒頭のピアノ独奏が13小節目からドビュッシー「パスピエ」(ベルガマスク組曲)風のピアノに変わると、二千年前と繋がったような不思議な空気が流れ、そこに語りかけるような歌が重なって行く。このテーマが現れた時にはピアノも歌もノンレガート演奏が基本となる。《譜例⑨》

譜例⑨

21 *p non legato*
いちじく の 木のしたに

途中、4分の2拍子から一瞬だけ4分の3拍子に戻る部分は、イエス・キリストがザアカイに語りかけている言葉である。ザアカイとは新約聖書に出て来る人物で、ルカによる福音書に登場する。

『さて、イエスはエリコにはいつてその町をお通りになった。ところが、そこにザアカイという名の人がいた。この人は取税人のかしらで金持であった。彼は、イエスがどんな人か見たいと思っていたが、背が低かったので群衆にさえぎられて見るができなかった。それでイエスを見るために前の方に走って行って、いちじく桑の木に登った。そこを

通られるところだったからである。イエスはその場所にこられたとき、上を見あげて言われた、「ザアカイよ、急いで下りてきなさい。きょう、あなたの家に泊まることにしているから」。そこでザアカイは急いでおりてきて、よろこんでイエスを迎え入れた。(7 節略) ザアカイは立って主に言った、「主よ、わたしは誓って自分の財産の半分を貧民に施します。また、もしだれかから不正な取立てをしていましたら、それを四倍にして返します」。イエスは彼に言われた、「きょう、救がこの家に来た。この人もアブラハムの子なのだから。人の子がきたのは、失われたものを尋ね出して救うためである」。(ルカによる福音書 19 章 1~10 節／口語訳)

この部分をなかにしさんも私も強く訴えるような表現で演奏していたが、星野さんの詩画展におけるオープニングコンサート (2006 年／赤レンガ倉庫) において星野さんが朗読をして下さった時、「ザアカイ、急いで下りてきなさい」というイエスの言葉を優しく子供をさとすように語られたので、ピアノを弾いていたなかにしさんと私は舞台上で大慌てだった。(もちろん心の中でだけでだが。) それからは星野さんが語られた優しいトーンを思い出しながらこの部分を歌うようにしている。《譜例⑩》

39 *Poco meno*
mf

ザ ア カイ - ザ ア カイ -

mf *p* *mf* *p*

譜例⑩

第6曲「今日も一つ」(「鈴の鳴る道」日日草 D-dur 4/4 拍子)

富弘ファンの間でも人気の高い「今日も一つ～日日草」の旋律は2種類の案が送られて来て私が選ばせて頂いたものが現在の「今日も一つ」である。曲も大変人気が高

く、合唱では女声版・男性版・混声版のすべてが編曲・出版されている。この歌曲だけで独立して演奏する機会も多い。

この曲は私にとって作品群の中でも特別な、「祈り」のような存在となっている。

冒頭のピアノ独奏は軽々しい音色にならないように。パイプオルガンの音色を思い浮かべて、賛美歌のように、また敬虔な空気を作る気持ちで。《譜例⑪》

譜例⑪



淡々と進むピアノの上で、歌唱はクラシックのリズム感に捉われずに歌いたい。

《譜例⑫》

譜例⑫



ひとつひとつの動詞にそれぞれの思いを込めて歌いたい。私は「あきらめたり」を subito P で歌っているが、様々な表現が可能である。《譜例⑬》

譜例⑬

16 *mp*
わらったり 泣いたりー のせんだり あきらめたりー
19 *cresc.* *f*
-にくんだりー あい-したり

繰り返し出てくる「ひとつ」という言葉を語り重ねてゆくように、同時にだんだん自分自身の心の中に語りかけてゆくように歌いたい。49, 50 小節のピアノは教会の鐘の音のような響きで。最後の小節のアルペッジオはゆっくりと丁寧に。《譜例⑭》

譜例⑭

49 *pp* *rit.*
ひとつ - またひとつ - ひとつ -
50 *rit.*
-

第7曲「二番目に言いたいこと」(「風の旅」むらさきつゆくさ F-dur 4/4 拍子)

元の合唱曲ではアンコール・ピースの扱いになっていた。歌詞の付いた部分を2回繰り返し、2回目にはヴォカリーズで歌う合唱の上にナレーションを重ねることもあった。独唱歌曲集としても第6曲の「今日もひとつ」がメインディッシュの位置づけなので、コンサートではこの曲をアンコールとして他の6曲とは分けて演奏しても良いが、私は大抵7曲を通して演奏している。(譜例⑮なかにしさんによる手書きの楽譜)

譜例⑮

にぼんぬに・言いたいことしわ・とには・

最後のヴォカリーズを私はノンヴィブラートで歌っているが、「言葉に出来ない思い」をどのように表現するかにより演奏法は異なる筈なのでノンヴィブラートで歌うことが必然で求められている場所ではない。歌がヴォカリーズをしている部分のピアノは「オルゴールが鳴っているような音色で」と共演ピアニストには常々お願いしている。

《譜例⑬》

25 *a tempo* *p* *Vocalise*

譜例⑬

28 *dim.* *pp* *rit.*

第3節 2作目の委嘱歌曲集

第1作にあまりに思い入れがあり、達成感もあったためか、第2作を依頼するまでに十数年の歳月が経っていた。

2005年に軽井沢大賀ホールで、すべて星野さんの詩・なかにしさん作曲による作品のコンサートがあった。これは軽井沢恵みシャレーが企画してくれたもので、星野さんも舞台上でインタビューを受けて下さった。この日のアンコール曲としてなかにしさんが書き下ろしてくれた「愛されている～春蘭」の詩に「神様＝あなた」という言葉があることに注目し、それまで刊行された詩集から「あなた」という言葉が使われている詩をピックアップした。なかにしさんと検討した結果、詩の長さや音に乗るか

などの問題や全体の流れもあり、全ての曲を「あなた」で揃えることは断念したが「愛されている」の他に1編、「あなた」という言葉が入っている詩が残った。(第1曲「声」)
第1作では手書きだった楽譜はパソコン打ち込みになり、Fax.ではなくメールの画像添付で送られて来た。音にしてみた最初の印象は「難しい」。無調だとか音が難しいという訳ではない。前作と同じく美しい、なかにしサウンドは息づいている。しかし、作曲家が詩と真正面から向き合い「この音しかない」と思った音楽を優先させた結果、歌手にはチャレンジになる内容になった。であれば歌手が音楽に近づくしかない、近づいて行こうと挑戦である。ただ、なかにしさんも常々言っているが、その時その時の最善の音楽を誠実に歌い奏でることで、その時々的人生を織り込んだその瞬間にしか出来ない音楽が出来るのであろうし、それに応えられる作品でもあるのだと思っている。

2007年11月18日 大和カルバリーチャペルにて初演。(ピアノ:なかにしあかね)

第2節 歌曲集「ひとつの花が咲くように」各曲概説

第1曲「声」(「花よりも小さく」アカシデ A-dur 3/4拍子・4/4拍子)

キラキラと輝くピアノの音で“あなた”からの呼びかけが表わされ、この歌曲集が始まる。それに応えて“さきほど私を呼びましたか”と歌い始められ、“あなた”と私の対話は高くなり低くなり続いて行く。キリスト教信仰を持つ星野さんにとって“あなた”は神(イエス)であり、見えないけれど“あなたがいつでも近くにいてくださるのを知っています”と神への信仰・信頼を告白しているのである。私がこの曲を歌う時、実際には「神様、あなたはどこにいますか?遠くにいるのではないですか?」という心情の時もあるが、自分に言い聞かせるように歌うことで、歌い終わった時には心からそう思える時も良くある。技術的には声を言葉に上手に乗せて、神と自分とのさりげない日常的、個人的な会話として聞こえてくるように歌いたい。

第2曲「花」(「あなたの手のひら」つわぶき e-moll 6/8 拍子)

この小品のピアノパートは右手のみになっている。当初書かれていた左手パートは全て削除され、結局は16分音符が常に刻まれる音型の連続が微かに鳴っている中を、歌手は殆どアカペラのような気持で歌うことになる。(左手パートのあった第1稿は作曲者のみが知る。)この花は大輪の花ではなく、5cm程の小さな花を数輪つけて咲くそうである。ひっそりと寄り添うように「静かに咲く」この花のように、大仰な表現を避け、淡々と歌うべきである。

この曲に限らず星野さんの詩を歌う時は常にその絵を思い浮かべられるようにしたい。

第3曲「愛されている」(「あなたの手のひら」春蘭 F-dur 4/4 拍子→12/8 拍子)

前述のように、この歌曲集を委嘱する基となったアンコール・ピース。美しく敬虔でさえある旋律と和音が心に深く沁みていく。同じフレーズを2度繰り返すので、私は第1節は自分に、第2節は誰かに語りかけるように歌っている。従って2回目は自然と少し速めに、強弱も強めになっている。大切に歌いたい言葉がいくつもあるが、「手を伸ばせば」「呼べば」の言葉は意外と看過されやすいので、距離感を曖昧にせずに歌いたい。

第4曲「野ばら」(「あなたの手のひら」野ばら C-dur 3/4)

モーツァルトを思わせる響きを持つピアノ前奏は、作曲者も讚美歌を意識して書いたと思われる。曲は一步一步踏みしめて歩くように訥訥として始まり、人生の様々な荒波のように途中転調しながら大きなうねりを伴い、また静かな風(前奏と同じピアノ独奏)に戻ってゆく。技術的に一番難しさを感じずる作品。しかし内容的にも技術的にも悲愴感を感じさせないように演奏するべきで、最後の「この道をゆこう」は逆に意思の強さを感じさせるように歌いたい。

第5曲「悲しみの意味」（「花よりも小さく」 サフラン B-dur→C-dur 4/4）

ふと語り始めるように「悲しみも苦しみもあって私が私になってゆく」と、詩の後半部分から始まる。元の詩は「冬があり夏があり」から始まるのであるが、あえて詩人の主題を先に“種明かし”することで、聴き手は常に他の言葉を「悲しみと苦しみ」に置き換えて聴くことになる。「今日もひとつ」と同じく、人気のある詩に涙の出るような美しい主題が与えられ、この主題が形を少しずつ変え、短い詩の言葉が何度も繰り返される中でだんだんと大きな表現になり、聴き手の心に深く入って行く。歌曲集の終曲としても聴きごたえのある曲であるし、独立して演奏される機会も増えるに違いない。

終章

演奏家にとって、一生を通して歌い続けられる作品の誕生に関わり、育てられたことは幸せだったと感謝している。“育てた”などと言うのは僭越かも知れない。作品が私を育ててくれたのだとも言える。また作曲家であると同時にピアニストとして、これらの作品群を数え切れないほど共演してくれているなかにしあかねさんとは、お互いの音楽を空気のように自然に会話しながらその瞬間にしか出来ない音楽を作ってきた。良きパートナーがいてこそその歩みだったと思う。

これからもこれらの作品が一人歩きをするのを見守り、更に共に歩いて行きたい。そして星野さんが思いを絵に託されるように、私も「一番言いたいこと」を、これらの歌に託して歌い続けて行きたい。

※1…JASRAC に星野富弘の詩による作品を登録している作曲者（五十音順／外国名は登録アルファベット順）

あ行 相澤直人 青木愛 生田敬太郎 池辺晋一郎 磯部俣 稲垣卓三 岩河智子
岩渕まこと 大田桜子 大中恩 岡島雅興 岡田京子 小町昭

か行 加藤直四郎 加羽沢美濃 川口耕平 河田美賀子 北川昇 北川文雄 北野實
きりん 牛腸征司 国枝春恵 窪田聡 小山章三

さ行 佐藤賢二 杉本龍之 勢井由美子 仙道作三

た行 高橋久美子 竹義和 田中響子 筒井雅子 時田直也 徳永洋明

な行 長尾愛作 中田喜直 なかにしあかね 中村典子 新実徳英 野田淳子 信長貴富

は行 服部公一 林雄一郎 平田聖子 平野淳一 藤原三千代 藤本秀夫 古瀬徳雄 細田直

ま行 前田守一 増本伎共子 松井孝夫 水本貴士 三村晶子 村田忠雄 森康高

や行 山内雅弘 山口良介 山崎浩 湯山昭

外国 DOBROGOSZ GRAYSON MATTEW ALLEN STEVE

※2…【自伝】「愛、深き淵より。」（1981年／立風書房《絶版》、2000年／学研パブリッシング《新版出版》）

【対談】「銀色のあしあと」作家・三浦綾子との対談（1988年／いのちのことば社）

「たった一度の人生だから」日野原重明医師との対談（2006年／いのちのことば社）

※3…富弘美術館累計入館者数は2010年9月20日現在5,959,503人。

※4…CD『二番目に言いたいこと』（2004年 ライフミュージック[いのちのことば社]）

歌曲集「二番目に言いたいこと」全曲 Sop.：西由起子 P：なかにしあかね

CD『今日もひとつ』（2010年 ALM Records[コジマ録音]）

歌曲集「ひとつの花が咲くように」（Sop.：西由起子）

歌曲集「木のように」（Ten.：辻裕久）

女声合唱組曲「今日もひとつ」（Cond:辻裕久 P:なかにしあかね Cho:The Songsters=女声）

無伴奏混声合唱組曲「思い出の向う側」（Cond:なかにしあかね Cho:The Songsters=混声）

“今日もひとつ”（混声合唱曲／ピース）（Cond:辻秀幸 Cho:The Songsters=混声）

※5…現代音楽演奏家集団ゲリラ・ヴォーカル・アンサンブル・トレリンコ（作曲者と筆者が当時所属）
による演奏。

※6…福音伝道教団 今市キリスト教会、足尾キリスト教会（関根辰雄牧師=当時）、ペンション「木馬」

※7…小田原クリスチャンセンター「サタデー・ナイト・スペシャル」シリーズ。ピアノ：奥千歌子

※8…CD「二番目に言いたいこと」発売記念コンサート ピアノ：なかにしあかね

2004年4月17日 主催・会場：軽井沢恵みシャレー

※9…「木のように」初演 Ten. 辻裕久 P:なかにしあかね 2004年9月14日 ルーテル市ヶ谷センター